



News Letter



VOL.17
2022年12月号



2022年度

女性およびライフイベント（育児）中の研究者支援の取り組み

ダイバーシティ・キャリア支援センターでは、女性およびライフイベント中（小学校3年生までのお子さんの育児中）の研究者に対して、下記①-③の研究・論文作成支援及び研究業績を表彰する取り組みを行っています。何れの制度においても、女性研究者は、講師または助教の方が、育児中の有無を問わず応募対象となります。男性研究者では、講師または助教であり、小学校3年生までのお子さんを育児中の方が対象となります。また、男女を問わず、産前産後休暇・育児休業・介護休業中の方も応募対象です。（他諸条件があります。詳細は公募要項をご確認ください。）

【支援制度】

- ①ダイバーシティ研究助成金（1件当たり 50万円上限）
- ②ダイバーシティ英語論文作成費助成制度（1論文あたり 5万円上限）
- ③ダイバーシティ表彰（学術分野）〔賞状と副賞（5万円）授与〕



本年度の①の採択者、③の受賞者は下記の通りです。なお、②の英語論文作成費助成は、現在も受付をしておりますので対象となる方は是非ご応募ください。

ダイバーシティ:性別やライフスタイル等に関わりなく、多様な個性が力を発揮することにより、組織として最大限の能力を発揮しようという考え方。

2022年度聖マリアンナ医科大学 ダイバーシティ研究助成金 採択者

氏名	所属	研究課題名	助成金額
古谷 菜摘 助教	産婦人科学	微細血流超音波ドブラを用いた胎盤の病理学的所見の予測に関する検討	40万円
山崎 和子 講師	内科学 (リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	炎症性筋疾患合併間質性肺疾患の治療最適化を目的とした肺CTの機械学習による進行度推測	30万円
土屋 貴大 助教	生化学 (生化学)	サイクリン依存性キナーゼ1(CDK1)の活性化におけるlayilin(ライリン)の役割の解明	30万円

2022年度聖マリアンナ医科大学 ダイバーシティ表彰(学術分野) 受賞者

氏名	所属	掲載雑誌	論文表題
山本 寿子 講師	小児科学	Neuropsychopharmacology Reports 2021;41:511-521	Effect of anti-attention-deficit hyperactivity disorder (ADHD) medication on clinical seizures and sleep EEG: A retrospective study of Japanese children with ADHD
宮澤 知行 講師	外科学 (呼吸器外科)	Cancer Control 2021;28:1-9	Combining PD-L1 expression and standardized uptake values in FDG-PET/CT can predict prognosis in patients with resectable non-small-cell lung cancer
川口 皓平 助教	外科学 (小児外科)	Pediatric Surgery International 2021;37:1755-1760	Muscle imbalance as a cause of scoliosis: a study in a fetal lamb abdominal wall defect model

2022年度ダイバーシティ表彰(学術分野)授賞式

2022年10月19日(水)



2022年10月19日に病院別館8階臨床講堂にて、ダイバーシティ表彰授賞式が執り行われました。受賞者は、女性研究者として、または男性研究者として育児で多忙な日々を過ごしながら、研究成果を挙げ、多数の応募者の中から選ばれた方々です。

式では、センター長の北川学長より、2022年度ダイバーシティ表彰(学術分野)受賞者である山本講師、宮澤講師、川口助教へ表彰状と副賞(5万円)が授与されました。

後列:左から呼吸器外科 佐治主任教授、明石副センター長、高田女性医師・研究者支援部会長、小児科 清水主任教授
前列:左から北川学長 呼吸器外科 宮澤講師、小児科 山本講師、小児外科 古田主任教授(川口助教代理)、加藤医学部長



〈開会の挨拶〉
高田女性医師・研究者支援部会長



〈祝辞〉
北川学長・センター長



〈閉会の挨拶〉
加藤医学部長



山本講師



宮澤講師



古田主任教授(川口助教代理)

2021年度ダイバーシティ研究助成金採択者講演について

女性医師・研究者支援部会ではダイバーシティ研究助成金制度を設け、採択者には翌年度の学術集会でその研究成果を発表していただいています。今年度は、医学会第82回学術集会が2022年10月20日(木)～11月17日(木)の期間、オンデマンド形式で行なわれ、2021年度ダイバーシティ研究助成金採択者の2名の先生方に、以下の演題で講演いただきました。

- 有戸 光美 講師(生化学) 「ライリンに焦点を当てた上皮間葉移行の分子基盤の解明
～がんの治療標的候補として～」
- 大神田 敬 助教(微生物学) 「多剤耐性菌感染モデルとしての線虫の有用性」



講演動画配信について

保育・介護支援部会より、今年度は妊活や子育てについての動画配信を行いました。
内容・視聴された皆さんからのアンケートについてご紹介します。

「コロナ禍と子供達」 動画配信期間:2022年 8月22日～9月30日

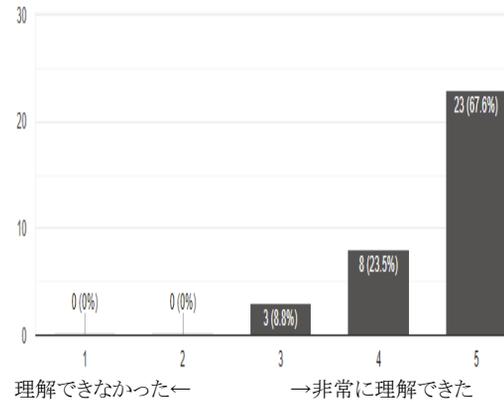
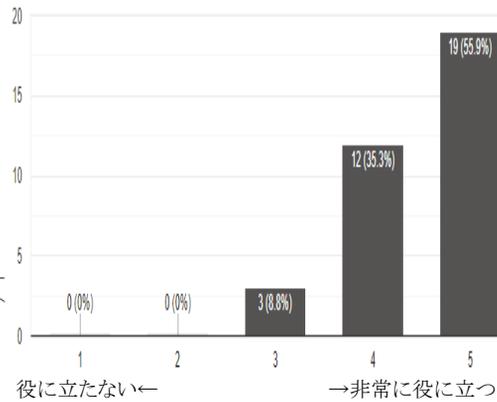
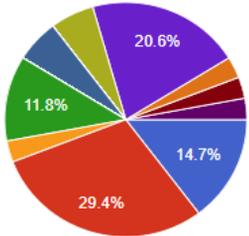
1.コロナ禍とこども～医師から見たその影響と課題～ 講師:神経精神科学 小野和哉 特任教授

2.コロナ禍と子ども～臨床心理士から見たその影響と対応～ 講師:精神療法・ストレスセンター 塚原さち子 主査

[職種]

[講演の内容はどの程度、役に立ちましたか?]

[講演の内容の理解度は?]



- 教員 (医師等)
- 看護師・助産師
- 薬剤師
- 臨床検査技師
- 診療放射線技師
- 臨床工学技士
- 理学・作業・言語療法士
- 視能訓練士
- 管理栄養士・栄養士
- ソーシャルワーカー
- メディカルコーディネーター
- 看護助手・診療アシスタント
- クラーク
- 事務職員
- 研究技術員
- 秘書

[今後、企画してほしい講演会等について教えてください]

- ・子供にやさしい社会は高齢者にもやさしいのではないかと考えられており、コロナに限らず高齢者の問題点とその対応についてご教授頂ければ幸いです。
- ・定期的にこの企画の続編を聞いてみたいです。
- ・自身の仕事が多忙となり、自分の子供の事も気になりながらも二の次になっていたここ数年でしたので、このような内容はとても興味深く視聴できました。またこのような職員自身の家族への対応等の内容を企画していただけると嬉しく思います
- ・講演動画を視聴して、コロナ禍における家庭を取り巻く状況やこどもへの対応について理解を深めることができました。コロナ後から続いている漠然とした不安感や焦りのような感情について、動画を視聴したことで視点を改めて客観的にとらえることができました。大変意義のある学びとなりました。

その他、「コロナ後遺症」、「発達障害児の対応方法」、「3歳を超えた子供を療育する職員のための本学の支援」、「不登校の子供を持つ職員への支援・休暇制度」

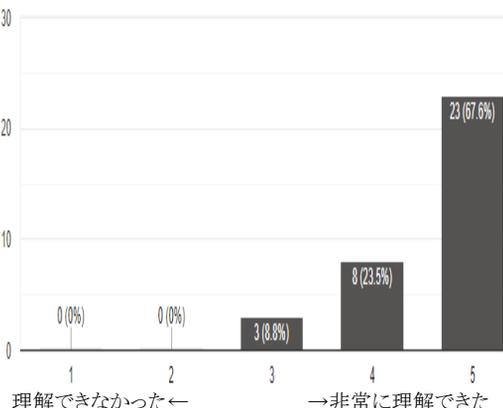
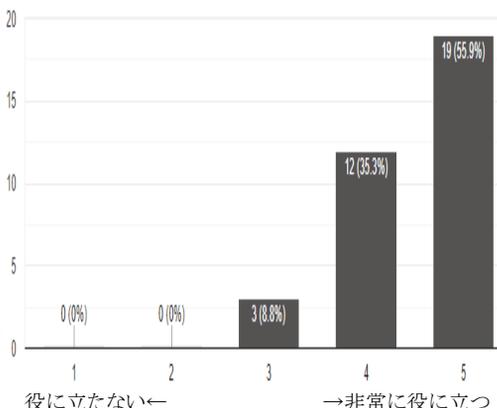
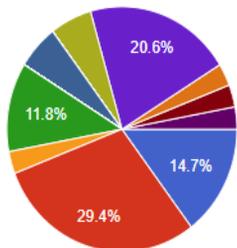
「不妊治療と仕事」 動画配信期間:2022年10月11日～11月30日

不妊治療の正しい知識 講師:産婦人科学 洞下由記 講師

[職種]

[講演の内容はどの程度、役に立ちましたか?]

[講演の内容の理解度は?]



- 教員 (医師等)
- 看護師・助産師
- 薬剤師
- 臨床検査技師
- 診療放射線技師
- 臨床工学技士
- 理学・作業・言語療法士
- 視能訓練士
- 管理栄養士・栄養士
- ソーシャルワーカー
- メディカルコーディネーター
- 看護助手・診療アシスタント
- クラーク
- 事務職員
- 研究技術員
- 秘書

[今後、企画してほしい講演会等について教えてください]

・不妊治療中です。周りからはまだ若いので大丈夫と思われがちですが、年齢関係なく問題を抱えているカップルはいるということを知ってほしいです。体外受精までステップアップすれば仕事との両立は厳しいだろうと感じています。不妊治療をする＝仕事に影響して迷惑というネガティブな理解をされて苦しみたくないです。だから時が来たら辞めようと思っているのが本音です。看護師は職業的にも余計にそういう人が多いような気がします。どうか不妊治療と仕事の両立についての発信を続けてほしいです。

・この内容はぜひ、プレコンセプションケアとして地域の挙児希望女性たちも閲覧できる形のものにしていくとよいのではないかと考えた。産婦人科領域で仕事をしていると流産の確立のことをしらず、過度に流産で苦しむ方もいると思余計にそう思った。女性だけでなく、男性もぜひ見てほしいと思うし、最後の洞下先生の、「知って産まないのと知らずに産めないのは大きく違う」という言葉がとても重要だと思った。聖マリの福利厚生で不妊治療を行っている職員への措置などがあるかどうか知りたいと考えたし、なければそうした制度をぜひつくっていただきたいと考えた。今後企画してほしい講演会としては、他の病院や、企業のD&I部門がどのようなシステムを使っているのかなどを知りたいと考えています。またD&Iやジェンダー平等、サステナビリティとはどういうことを指し、職員が医療の中で何をすべきなのか、個人の生活の中でどうあるべきなのかを知りたいです。これから子どもを持ちたいと思う人向けに、子育て世代の先輩からの話を聞ける会などがあると参加したいと思う。

・不妊治療をしている職員に対して理解や協力が得られるような講演会をしてほしい。経験者として、胚移植後に負荷のかかる仕事は避けなければいけないが治療中であることを告げていなかったため、どう伝えたらいいか難しかったことなど仕事を辞めたほうがいいのかではないかと思うことが度々あった。

・不妊治療に使用する薬剤の種類、スケジュール、特徴や使い分け、主な副作用を知りたいです。

その他、「介護看護休暇、ハラスメント」、「心身障害児」、「産婦人科のブライダルチェック」、「妊娠の基礎知識」、「不妊治療を取り巻く職場の相互理解」、「男性不妊」、「新生児集中治療室退院後の児の経過や今できるケア」

創立50周年記念講演～シリーズ「ダイバーシティ」～[共催講演]

第5回 「順天堂のこれまでのLGBTQの課題についての取り組み」

日時:2022年10月7日(金)17:30～19:00

ZOOM形式によるWEB講演会

講師:順天堂大学大学院

医学研究科医学教育学 武田 裕子 教授

主催:総合教育センター

共催:医学部FD委員会・大学院・看護専門学校・ダイバーシティ・キャリア支援センター・職員教育研修委員会・学年担当委員会・学生相談室

第6回 「パラカヌーと出会って人生が豊かになった話」

日時:2022年11月17日(木) 18:00～19:00

会場:病院別館8階臨床講堂

講師:パラアスリート 瀬立モニカ氏

主催:総合教育センター

共催:医学部FD委員会・大学院・看護専門学校・ダイバーシティ・キャリア支援センター・職員教育研修委員会・学年担当委員会・学生相談室

育児休業の取得について



2022年4月に育児休業法が改正されました。大きなポイントは、男女とも育児休業が2回に分割可能になったことです。さらに男性は産後8週までに利用できる「産後パパ育休」と合わせ最大4回まで取得可能となり、複数回に分けて短期間取得するという柔軟な利用ができるようになります。それぞれの家庭にあった取得期間・時期は様々です。詳細は、下記人事課HPをご覧ください。

【問合先・人事課HP】

菅生キャンパス・プレスト・・・人事部人事課

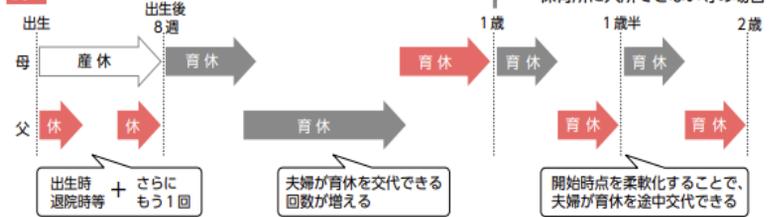
多摩病院・・・総務部総務課、西部病院・・・総務部総務課、東横病院・・・総務部総務課

http://mip.marianna-u.ac.jp/campus/modules/documents/download.php?doc_id=22351

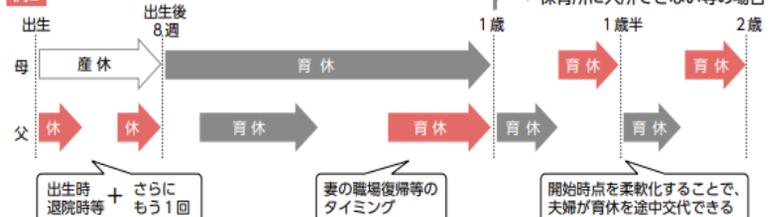
【取得イメージ】

➡ ピンク色の矢印が、今回の改正で新たにできるようになることです

例1



例2



産後パパ育休
→新設(分割して2回取得可能)

育児休業
→夫婦ともに分割して2回取得可能

1歳以降の育児休業
→途中交代可能